

歴史エッセイ

米子城について

城ブームの昨今、書店にて『日本百名城』の本を多く見かけます。或る日、『続日本百名城』のなかに米子城が取り上げられていました。新聞でも米子城の記事をみる事がありますが、現在は石垣のみがみえますが、かつては五重の楼があったそうです。岩国徴古館蔵の米子城図は城郭がみえ、図の右側が日本海になります。



米子城図 岩国徴古館所蔵

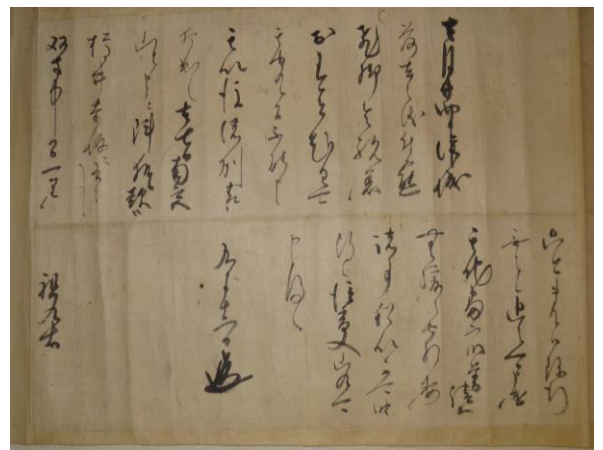
さて、米子城は、天正十九年(一五九一)、吉川広家が富田城へ移城した後、築城に着手しました。富田城は西日本有数の守りの固い城であり、広家は居城と希望していましたが、しかし、日本海の海上交流が盛んになり利便性を考えてのことでした。さて、築城工事は慶長五年(一六〇〇)の関ヶ原合戦直前まで続いています。それが分かるのは九月十二日付の祖式長好宛ての広家書状です

内容は次のとおりです。

「先月二十四日、安濃津城の落城について飛脚が祝着のことを詳しく述べますので聞いてください。言うまでもありません、その後、美濃(岐阜)へ出陣し、去る七日南宮山というところに陣を構えた。敵は樽井(美濃)赤坂にいます。双方の間は一里です。只今まで動きはない、追々伝えます。その地の番衆は普請をぬかりないようにすることが肝要です。諸事、猶以て油断してはいけません。香川春継や山縣春佳に従ってください。謹言。」

関ヶ原合戦後、広家は毛利氏が防長二ヶ国移封となり、その毛利氏より岩国の地を与えられました。

広家は城の場所を決定し、山の麓に城館の建設を開始し、続いて城郭の普請を行いました。普請奉行は四名おり、



そのうちの一人が祖式長好です。長好は米子城築城の際にも関わりましたので岩国城と米子城には似たような特徴があったと考えられますので発掘調査が待たれるところです。

(原田史子)

編集後記

『家庭画報』四月号(三月一日発行)に当館が紹介されました。錦帯橋と桜の写真も掲載されています。機会があればご覧ください。

正門近くの上田宗箇ゆかりの桜も二つ三つ開花しはじめました。三月十八日撮影)



(原田)

吉川史料館

〒七四一-〇〇八一

山口県岩国市横山二丁目七・三

TEL 〇八二七・四一・一〇一〇  
FA 〇八二七・四一・三二〇〇